

令和7年度大学院授業評価まとめ【前期（春・夏学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
1	25660001	トランスジェニック生物学特論	38	21	55.3	4.22	全ての評価項目で4点を超えていたので、授業の進め方については問題ないとする。	シラバスの学習目標は明確だった項目が4.2と平均より低かったため、今回の講義では、シラバスの充実に努める	
2	25660002	植物生産科学特論	25	10	40	3.77	各項目の評定の全てが科目群平均を下回り、評価が低いことが明らかであった。これまでの数年間は評価が比較的高かったが、これと内容が大きく異なったわけではないので、この授業の目的や内容が受講者の期待、ニーズに合致していなかったと考えられる。「双方向性が無い」、「学びを深めるきっかけとならない」、「満足度が低い」等、むしろ当該授業がこれまで重視してきたはずの項目における評価が低いこと、また、教員の授業への熱意を疑われる状況を受講者から自由記述欄にて指摘されたことは大きな課題である。	授業の目的とその内容について、昨年までは概ね高評価であったことから、直ちに内容を抜本的に見直す必要は無いであろうが、当初に受講者の十分な理解を得ておくことが求められる。「期待した内容と大きく異なっていた」という主旨の指摘に、十分配慮する必要がある。 当該授業が農業生物科学教育コースの必須科目に設定されており、その担当教員二名が定年退職により2027年度以降に相次いで交代することから、次回（2026年度）を過渡期とみなし、教育の継続性に鑑みて、「教育効果の検証」および「目的と内容の再整備」に着手することも求められる。	例年、アンケートの回収率が科目群平均よりもかなり低いことから、本年は受講生に対して繰り返しアンケートへの協力を指示していた。にもかかわらず、例年同様の低回収率となった。 とくに授業に対する評価が低い受講生ほど、アンケートに協力する意識も低く、結果的に得られた回答の数値が過大評価となっているおそれがあることが容易に想像できる。「正しい授業評価とそれに基づいた教育の改善」という観点から、アンケートの回収率を上げることへの取り組みをさらに強化しなければならない。
3	25660101	動物・水圏資源保全学	39	15	38.5	4.48	10項目のうち、8項目が平均以上であった。「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」（共60）については3.7（科目群平均4.0）、「この授業内容についてより深く学びたいか」（共221）は4（科目群平均4.1）と平均を下回っていたため、今後の課題である。	特に、双方向性が低い評価であった。知識・原則についての講義については、必ずしも双方向性を担保することは難しい場合があるが、可能な限り学生との意見交換等を取り入れていくよう、各担当教員に周知する。	
4	25660102	生殖生物学特論	31	7	22.6	4.48	全ての項目の点数が4.0以上あり、インストラクション（共-68）と学修マネジメント（共-81）が4.9と高い点数であり、学習デザイン（共-211）が4.0と最も低かった。昨年度と比べ、学修マネジメントが大幅に改善され、これは新たな教員が加わったことによる効果もあると思われる。	アンケート回収率が22.6%と低く、昨年から改善が認められなかった。来年度は最終講義者を中心にこれを改善する必要がある。来年度は、講義最終日にアンケート記入時間を設けることによりアンケート回収率を改善したい。	特になし。
5	25660109	水族生理学特論	22	7	31.8	4.31	共53、共68、共81が低くなっているが、共51、共60、共3、共221、共10は高い値となっている。	本講義では、脊椎動物の性の仕組みについて、最新の総説にもとづいて紹介し、討議するという点に重点を置いた。授業の形式上、低いスコアとなった項目がある一方で、共3「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」、共221「この授業内容についてより深く学びたいか」、共10「総合的に考えて、現在この授業に満足している」で平均よりも高い値となっており、特に共3については平均よりも0.8ポイント高いことから、本講義による学習効果は高かったと推測する。	
6	25661002	森林資源管理学	10	3	30	4.69	10名の履修登録者のうち3名しか回答していなかった。回収率を上げるのが課題である。 3名の評価は全般的に科目群平均よりも高く、特に「学生と教員との双方向性」は5点であった。オムニバスの授業形式ではなく演習林でゼミ形式で、また内容を理解できるように林内計測も組み合わせた効果であると考えられる。	授業内容の大きな変更は不要であるが、評価の提出をあげるために、授業の最終日およびレポート提出締め切り日に入力呼びかける。	
7	25661101	生産環境の科学（E科目）	25	12	48	4.05	オムニバスの授業なので仕方がないかもしれないが、より深く学びたいという項目に低い評価をつけた学生がいたのが気になった。	オムニバスの授業なので、先生方に深く学びたいくなるような工夫をしてもらうよう、願います。	
8	25661102	生産環境データ解析論	20	19	95	4.20	学習目標、教員の熱意、総合評価については概ね良好との回答であったが、難易度、講義内容（主体的学修、学習意欲）という点で低い値となった。後者に関しては、一部の学生に低い評価を回答したものがいたため、全体的な評価が低くなった。	自由記述欄の回答の中に、講義内容や難易度の改善に関するものがあつたことから、次年度に向けて改善したいと考える。	

令和7年度大学院授業評価まとめ【前期（春・夏学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
9	25661103	熱と流れの科学	17	9	52.9	3.98	質問10項目のうち6項目で、ポジティブ回答が多く、スコアが4.0を超えており、昨年度と同程度の評価を受けた。本科目がかなり専門性の高い数物系科目ということ踏まえて、動画配信によるオンデマンド型で講義を実施した。そのため、「学生と教員のやりとりには双方向性があったか」の評価点が低い結果であったが、知識の修得・理解を第一義とする専門科目であれば、必ずしも双方向性が必要とはいえない。また、専門性が高い数物系科目であるため、学生の所属分野によっては必ずしも必須とはいえず、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」、「この授業内容についてより深く学びたいか」がスコア3.7のやや低い評価を受けたが、自身の修士論文のテーマとの関連性だけで評価されるべき項目ではないと考える。なお、自由記述回答欄の中で「内容が難解ではあったものの、講義内容の説明がすごく丁寧で自習しやすかったです。」との評価もあり、適切なコア科目を提供できたと考え。	次年度から担当者が変わるが、双方向性のある授業を意識することなく、講義内容の説明動画の配信によるオンデマンド式の採用を検討してもよいと感じが得る。あわせて、主体的な学修意識や学習意欲の向上に繋がるようなコンテンツの提供を考えるべきかと思う。	
10	25661104	灌漑利水学特論	10	5	50	4.48	土壌物理学で良く使われる方程式の導出など、大学院の授業ということと高度なことも教えたが、わかりやすいという評価だったので、安心した。一方、触発されて自ら学ぶことや、今後この研究をしたいと思わない学生がいる点が問題点として挙げられる。	学生が興味を持ち、さらに学びたいくなるよう、最新の面白いトピックスと関連付けながら、灌漑の大切さを学べるような授業を目指したい。	
11	25661106	地盤環境工学特論	14	5	35.7	4.50	受講者数は14名、アンケート回収数は5名、回収率は35.7%であった。回収率を上げる必要がある。 各カテゴリの値は3.8~4.8の範囲にあった。科目群平均よりおおむね高い値であったので、受講者にとって有用な科目となったことが推察される。しかし、主体的学修、学修意欲については平均を下回ったので改善が必要である。	アンケート回収率の向上、学生の主体的な学修を実践させること、学修意欲を向上させるよう努める。具体的な対策としては、各講義回に進進の研究事例を紹介するなど、応用例を理解させる。	
12	25661301	木質の形成と利用	14	3	21.4	4.40	回収率が21%である事を認識した上で、3項目を除き科目群平均より高い評価であったが、その項目も平均よりわずかに下回っただけであり、概ね良好と考える。 アンケートの質問内容が、個々の学生の主観に依存するまいようであるため、今後質問を内容をより客観的にするよう、専門識者と検討した方がよいように思える。	複数教員（3名）で担当しているため、フィードバックシートを共有し、解決方法を議論する	アンケートの質問内容が、個々の学生の主観に依存するまいようであるため、今後質問を内容をより客観的にするよう、専門識者と検討した方がよいように思える。
13	25661302	サステナブル資源科学（E科目）	15	5	33.3	4.30	本授業に対する学生の満足度を評価指標別に分析した結果、ほとんどの項目において同種科目群の平均値を上回る評価が得られていた。このことは、授業内容や指導方法が受講者の学習ニーズや期待に適切に対応しており、教育的効果が一定程度達成されていることを示唆している。	『授業の難易度は適切であったか』の項目については、他の項目と比較して相対的に低い評価が見られ、同種科目群の平均を下回る結果となった。この点は、受講者の学習背景や理解度に対する難易度設定の最適化が今後の課題であることを示唆している。次回（来年度）の講義においては、基礎的事項の確認と発展的内容のバランスを再検討し、異なる学習レベルの受講者にも対応可能な内容設計を行うことで、より高い教育効果の実現を目指す。	
14	25661311	木質資源学	14	3	21.4	4.19	本授業に対する受講者の評価を項目別に分析した結果、授業全般にわたる多くの項目において、同種科目群の平均値とほぼ同程度の評価を得ている。これは、授業内容や指導方法が受講者の学習ニーズに概ね合致し、一定の教育的成果を挙げていることを示している。一方で、『インストラクション』に関する項目については、他項目と比較して相対的に評価が低く、同種科目群の平均を下回る結果となった。この傾向は、受講者の学習背景や理解度の多様性に対する授業設計、特に難易度の調整や説明の明確性に関して、今後改善の余地があることを示唆している。	受講者の学習背景や事前知識に配慮し、導入部において授業の目的や内容構成、キーワードの定義を明示することで、全体像を把握しやすくする。また、授業中には適宜確認問題や小テストを取り入れ、理解度の把握と即時のフィードバックを行うことで、受講者との双方向性を強化し、指導の明確性を高めることができる。これらの改善を通じて、インストラクションの質的向上を図り、より高い授業満足度と学習効果の達成を目指す。	

令和7年度大学院授業評価まとめ【前期（春・夏学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
15	25663001	生物機能分子化学Ⅰ（E科目）	43	26	60.5	3.98	本年度の評価は、全項目で、科目群平均をわずかに下回るスコアであった。その原因の一つとして、共通-51を除く全評価項目で最低点「そう思わない」をつけた受講生が1名いたことが挙げられる。また、「E科目を必修とすることに憤りを感じる講義だった。教員の中に講義に対する熱意が全く感じられない方が多くいた」との自由記述回答があったことは、真摯に受け止める必要がある。	本評価結果を担当教員と共有し、受講生にとってわかりやすい授業を、熱意をもって担当することを改めて確認する。なお、国際コースにおける同講義に対する留学生の評価は悪くないことから、授業内容よりもE科目であることが評価を下げた可能性はある。学府でE科目を必修化している意義を十分に説明することも重要であろう。	
16	25663002	生物機能分子化学Ⅱ	26	13	50	4.30	全て4以上の評価となっており、概ね想定している講義が実施できたと考えている。	双方向性、学習意欲、満足度、で2名が「どちらとも言えない」を選択している。講義実施教員にアンケートを展開し、改善策を講ずることとする。	
17	25663101	システム生物工学特論	25	23	92	4.39	アンケートの集計によると、前回どちらとも言えないに回答があった項目について「学生と教員とのやりとりには双方向性があった：40%→26.1%」「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した：28.6%→8.7%」減少し、どちらかと言えばそう思うとの回答が増えた。それぞれ（35.7%→43.5%）、（14.3%→56.5%）改善された。	今後も学生の声に耳を傾け、学生自身の好奇心や自ら学ぶ姿勢を尊重していきたいと思う。引き続きアンケートを活用し、新しい意見を取り入れ授業を工夫していきたいと考える。	
18	25663103	システム生物化学特論	54	38	70.4	4.41	ほとんどの項目について概ね4以上であり、各項目は適切であったと評価する。 「学修マネジメント：学生と教員とのやりとりには双方向性があった。」に関しては評価が低かったため、改善の余地があると分析する。	「学修マネジメント」に関して双方向性をさらに授業に取り入れる。	
19	25663104	環境微生物学特論	14	9	64.3	4.06	授業の難易度と学習意欲の項目が4未満であり、これらを向上することが必要と思われる。一方、授業者の特徴に項目は平均より高い4.6であったので、熱意は伝わったように感じる。また、回収率が64.3%ドア理、もう少し回収率を上げる必要がある。	難易度が高すぎるのか、それとも低すぎるのか分からないため、また、3名の講義であるため、特定の教員の授業だけについての指摘かどうか不明であるため、具体的な対応は難しいが、今回のアンケート結果を担当教員に周知することで、次回以降へ対応いただくこととする。	
20	25663105	微生物生産工学特論	76	36	47.4	4.29	ほぼ全ての項目で平均点であった。	双方向性については、時間の関係で難しいが、学生とのコミュニケーションをとりながら授業を進めていくようにしたい。	
21	25663110	細胞機能工学特論	83	45	54.2	4.36	総合点数は4.5であり、概ね良好であると判断できる。双方向性の部分と学習意欲の部分がかさし低い点となっている。	双方向性を持たせることと、学習意欲を駆り立てるような授業を行うよう改善する。	
22	25663114	微生物遺伝子資源工学特論	16	9	56.3	4.54	全ての項目の評価が4.0以上で概ね良い評価を得られている。特に、シラバスの学習目標と教員の授業準備は4.8で高く評価されていた。	回収率が56.3%であったので、これを向上させるべく、講義の最終回に授業評価アンケートの記入時間を備けるなどの工夫をしたい。	
23	25663301	食品機能学特論	23	19	82.6	4.65	回収率82.6%（19/23）での科目評価スコアは4.3-4.8であり、受講生が十分に満足のいく講義を実践できたのではと考える。	特になし	特になし
24	25663303	食品品質学特論（E科目）	32	25	78.1	4.38	今期の日本人向けE科目講義としては平均よりもほとんどで高い値だったことから満足のいく内容だったと思われる。	来年度もこれまで以上にわかりやすい説明に注視して講義を進めていく。	
25	25663306	機能構造解析学特論	10	10	100	4.75	回収率100%（10/10）での科目評価スコアは4.6-5であり、受講生が十分に満足のいく講義を実践できたのではと考える。	特になし	
26	25665002	応用統計学	13	11	84.6	4.42	<ul style="list-style-type: none"> •Collection Rate: 84.6% (11/13), exceeding the university average of 55.4% (412/744). •Average Score: 4.42, above the university average of 4.29. •Student Satisfaction: Generally high, with no "Strongly Disagree" responses across all questions. Minor concerns were expressed in categories 共-51, 共-53, 共-211, 共-60, 共-81, 共-3, 共-221, 共-10 (1 "Disagree" each). Overall satisfaction with the course (共-10) is positive: 1 "Neutral", 4 "Agree", and 5 "Strongly Agree". •Student Feedback: One student requested more Python documents and reference books. 	Provide more Python marterials and exercises to students in the class.	

令和7年度大学院授業評価まとめ【前期（春・夏学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
27	25665013	生産環境の科学(国際コース)	10	4	40	3.85	評価はそれほど高くはないが、オムニバスの授業としては及第点だと思う。	双方向の授業ではないというアンケート結果があったので、この点に注意して来年度取り組みたい。	
28	25665016	生物機能分子化学Ⅰ(国際コース)	12	8	66.7	4.24	概ね、科目群平均に近い評価であった。留学生との間では、双方向性に良好な評価が得られたことは興味深い。授業への質問等がほぼ留学生からしか寄せられていないことを反映しているのかもしれない。	「毎回の授業で学ぶべき重要な目標を明確に示したか」の評価が若干低かったため、次年度はこの点を特に注意したい。	
29	25665018	食品品質学特論(国際コース)	13	12	92.3	4.15	今期の国際コース向け講義としては平均よりも若干低い値であったが、ほぼ4点以上であったことから満足のいく内容だったと思われる。ただ、「教員の説明はわかりやすかった」が他よりも低めの値であった。	来年度はわかりやすい説明に注視して講義を進めていく。	

令和7年度大学院授業評価まとめ【後期（秋・冬学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
1	25660003	総合的病害虫管理学	24	6	25	4.91	本年度も、これまでと同様に6名の教員によるオムニバス形式で授業を実施した。当初は授業最終回にアンケート回答時間を確保する予定であったが、十分な時間が取れなかったため、授業内およびMoodleのメッセージ配信にて回答を依頼した。しかしながら、回収率は25%にとどまった。評価結果については、質問10項目すべてで科目群平均を上回り、うち6項目では満点の5.0を得るなど、昨年度よりもさらに高い評価が示された。	アンケート回収率向上のため、来年度は確実に、授業最終回に回答時間を確保した上でアンケートを実施する予定である。授業構成および内容に対する満足度は概ね高いと判断されるため、今後も双方向性に留意しながら、学生の主体的な学修を促す授業運営に努めたい。	
2	25660004	農業生物学特論（E科目）	29	7	24.1	4.48	日本人学生の評価は全体的に高かった。特に学修デザインの全項目が高く評価され、目標設定や難易度が適切だったことが確認できた。また説明のわかりやすさも平均を上回り、学外から入学した学生からのコメントから、質問への対応も丁寧だった点が好印象を残したことがわかる。一方で、対面かオンラインかの通知が十分でなかった点を指摘したと思われる評価項目もあった。国際コース学生の評価は全体的にやや低めだった。コメントから推察すると、多岐にわたる農学の知識を得られたとの高評価が多い一方、Moodleの利用方法がわからなかったため評価を心配している様子や、講義自体を受講しなかったため低評価にしてしまった様子が伺える。	Moodle上で早めに講義形態の通知を出し、講義資料も早めにアップロードするよう改善したい。また、留学生向けのアンケート内容の改善が必要。該当する評価項目でない場合に低評価を選ばずNot applicableを選ぶよう選択肢を加える、受講しなかった学生はアンケートに回答しないよう注意書きを加える、など不適切な回答をさせない工夫が必要。	
3	25660008	ゲノムサイエンスとエビジェネティクス	17	4	23.5	4.63	ほとんどの項目について科目群平均を大きく上回っており、十分な学習効果が得られていると思われる。	やりとりの双方向性については、平均と同じ評点であったため、今回は工夫したい。	
4	25660011	昆虫病理学特論	22	5	22.7	4.64	アンケート回収率は22.7%で、昨年度および全体回収率と比較しても低い値となった。評価結果については、質問10項目中7項目で科目群平均を上回り、残る3項目でも科目群平均と同程度の評価であった。全体として、昨年度よりも高い評価が示された。	アンケート回収率の向上を図るとともに、授業構成および内容に対する満足度は概ね高いと判断されることから、今後も双方向性を重視し、熱意を感じられる授業の提供に努めたい。	
5	25660016	植物環境調節学特論	20	5	25	4.86	アンケートについて受講生に丁寧に呼びかけたにもかかわらず、回答率は必ずしも高くなかった。その範囲内であるものの、受講生の評価は比較的高く、全ての調査項目で科目群平均を上回っており、授業の目標がある程度は達成されているものと考えられる。	当該授業で最も重要視している目標のひとつである「主体的学修：授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」とのことについて、さらに共感を得よう意見交換の場を通じて努めたい。	アンケートの回答率を上げる工夫が必要不可欠であり、効果的な方法について他の授業科目などの情報収集をしたいと考えている。
6	25660103	動物・水産先端科学論（E科目）	17	6	35.3	3.85	The collection rate of the questionnaire was 35-46%. Most of the responses were close to the average; however, the proactive learning rate was the lowest (3.2).	We will need to think about how to improve students' proactive learning. There are a few more concerns about students' learning, which I will discuss with the other two course teachers of this omnibus course.	
7	25660106	動物生殖生理学特論	16	6	37.5	4.68	全ての評価項目について、科目群平均を上回る非常に高い評価を得た。また、自由記述欄には「説明の仕方や流れがわかりやすく、初めて学習する内容にもかかわらず理解できた。」とのコメントも頂き、受講生が高いレベルで理解し、満足度の高い授業であったことがうかがえる。特に、「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」の項目については満点の評価で、総合評価も4.8であった。一番低い項目は「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」であり、各研究室に配属済みの大学院生対象授業としては高評価を得ることが困難な項目であった。	上述した通り高い評価を得ている授業であり、授業のスタイルを変化させる必要がないと考えられる。一方で、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」の評価項目については、4.5と高いものの、より改善できる個所と考えられるため、双方向性の授業となる工夫を次回以降組み込んでいく予定である。	
8	25660111	水圏生物資源環境学特論	16	7	43.8	4.78	全ての項目で科目群平均を上回っており、学生からの評価は高いと分析している。	改善の必要性はないと判断する。	大学院連携科目で学部生の聴講があったが、彼らは授業評価アンケートに入力できるのか？ 内部進学者が連携科目として聴講する傾向にあるため、院生だけをカウントすると、半分は他の教育コースからの聴講である。そして、4年生の時に受講する、我々の教育コースの学生の声が反映されていない状況下で、アンケート集計結果を評価することにどれほどの意味があるのか、疑問に感じている。
9	25661006	山地防災学特論	19	5	26.3	4.70	回収率が25%と低いことから断定は出来ないものの、学修マネジメント『学生と教員とのやりとりには双方向性があった』以外の項目は全て平均を上回っていた。	可能であれば、講義の終盤に学生が本科目で気づいた（学んだ？）事をプレゼンする機会を設ける等の工夫を行うことで、学習マネジメントについても改善を行なっていく。	
10	25661008	造林学特論	12	3	25	4.72	教員の熱意および講義への満足が高く、その他の項目も概ね平均を上回っており講義としては成功と考えられる。しかし、難易度についてはやや低い値となった。その点をどのように考えるのか、今後の課題である。	回収率をもう少し高くして、講義に対するフィードバックを高める必要がある。	
11	25661111	ポストハーベスト工学特論	25	8	32	4.53	総合評価である満足度について評価は高く（5/5）、特に問題はない。	アナウンスを強化して、アンケート回収率を上げる必要がある。	

令和7年度大学院授業評価まとめ【後期（秋・冬学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
12	25661305	森林バイオマス科学	12	5	41.7	4.52	概ね良好な授業評価が得られているが、学生と教員とのやりとりの双方向性について、不十分と感じた学生がいた。また、授業評価アンケートの提出率自体が低かった。	双方向性について意識していただくように、構成教員に依頼する。また、授業評価アンケートの提出について、レポート提出と組み合わせるよう工夫する。	担当コースの学生と、他コースの学生が半々であり、教員との距離感があった。来年は講義担当教員が減り、1名あたりの講義時間が増えるので、この点は改善されるかもしれない。
13	25663009	比較免疫学特論	24	9	37.5	4.68	回収率が50%に満たなかったことは残念である。ほぼすべての項目で、平均以上のポイントを得たが、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」だけが平均を下回ったことには対応が必要である。	毎回の講義内容をさらに調べるための参照先などを提供して、自分で学習するきっかけを与える。	
14	25663108	代謝機能調節学特論	13	2	15.4	4.00	アンケートへの回答を呼びかけたが、講義登録者数13に対して回収数2、回収率15.4%であった。共-10（満足度）は4.0であり、全項目の平均も4.0であったが、受講生全体の意見を反映していないと考えられる。2名とも、共-211（学修デザイン）授業の難易度が適切であったか、についての評価が低かった。受講生に学部生が半数近く含まれていたため、そのような評価になったと考えられる。	今年度で定年退職のため、来年度は開講しない。	アンケート回答をいくら口頭で呼びかけても回答率は低かった。回答率を上げるために、回答しなければ当該科目の成績を閲覧できない等の、実効性のある措置を講じてほしい。
15	25663111	植物遺伝子工学特論	16	6	37.5	4.46	主に最近の学術論文を題材にして資料を配布し、時折、質問を取り入れる形式で講義を進めた。総合的な授業の満足度(共-10)は4.5と総平均値と同じ標準的な値であった。4つの設問（学習デザイン2つ、学習マネジメント、学習意欲）以外の項目は平均を上回っていた。2024年度と概ね同じ資料を用いたが、昨年度スコア4.9（総合的な授業の満足度）と比較すると評価は下がっていた。	毎回の授業で学ぶべき重要な目標が一層明確になるよう、資料の再検討を行う。授業の難易度については、専門分野ではない他学府（工学府）からの受講者も複数名いたため、評価の低下につながった可能性が考えられる。可能な限り平易なイントロ等を各項目ごとに加えるよう試みる。引き続き深く学びたいと興味をかりたてるような話題と最新の情報を講義に盛り込み、次年度以降もさらに一層の充実を図りたい	
16	25663115	発酵化学特論	46	11	23.9	4.49	今回は学部学生の受講を無くしたので、大学院生だけの受講となった。興味を持った学生は後で質問に来たが、興味を持たなかった学生もいたことが残念である。	必須ではないので、もう少し対面でのやりとりをしても良いかと考えている。	
17	25663302	食品加工学特論	18	16	88.9	4.60	今回アンケートへの回答をメール等で再三呼びかけたので、従来と比較すると回収率の向上が認められた。登録者数18名だが、実際受講した学生は17名であった。回収率は88.9%（16/18）だったので、1名未回答ということなる。大学院の講義であるので先端的な内容を取り扱ったが、双方向性というところに改善の余地があるように感じられた。	基礎的な内容を取り扱う学部の授業とは異なり、大学院の講義であることの理解を得ながら、双方向性の拡充に務めたいと思う。	
18	25665001	基礎統計学	19	17	89.5	3.98	<ul style="list-style-type: none"> •Collection Rate: 89.5% (17/19), exceeding the university average of 45.5% (217/477). •Average Score: 3.98, below the university average of 4.45. •Student Feedback: Two students requested more time for exam and reduce content. 	The time allocation for the final examination will be reviewed to ensure it is commensurate with the difficulty and number of problems, addressing student concerns about time constraints.	A significant disparity was observed in student learning and performance. While some students demonstrated excellent mastery of the material and achieved very high scores in the final exam, others struggled with even basic questions. This variance is likely exacerbated by the diverse educational backgrounds inherent in an international program. To better ensure all admitted students possess the necessary quantitative foundation to succeed in this graduate-level course, it is strongly recommended that prior academic performance (specifically, GPA or relevant prerequisite coursework) be more heavily considered as a crucial criterion in the admission procedure for this program. This measure would help mitigate the current wide gap in foundational knowledge.
19	25665006	農学生命科学	19	17	89.5	4.23	回収率89.5%は概ね良好であった。評価点数は難易度および学習意欲が3点台であったが、全体として平均値に近かった。自由記述欄のコメントは概ね好意的な回答であった。	外国人留学生在が受講生の講義なので、難易度および学習意欲の評価に関しては、学部での遺伝学や分子生物学の学修状況に依存すると考えている。シラバスには受講条件（遺伝学や分子生物学受講済みのこと）は記載しているが、初回の講義でもアナウンスすべきと考えている。	
20	25665007	フードサイエンス・フードシステム論	24	21	87.5	4.41	評価が高く、好評である。授業も、こちらからの質問をするとすぐ回答してくれて、楽しい授業でした。	専門外のこともあるので、難しい部分も存在するみたいです。説明を平易にすることを、心がけるように伝達します。	

令和7年度大学院授業評価まとめ【後期（秋・冬学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
21	25665010	農業生物学特論(国際コース)	26	20	76.9	3.99	日本人学生の評価は全体的に高かった。特に学修デザインの全項目が高く評価され、目標設定や難易度が適切だったことが確認できた。また説明のわかりやすさも平均を上回り、学外から入学した学生からのコメントから、質問への対応も丁寧だった点が好印象を残したことがわかる。一方で、対面かオンラインかの通知が十分でなかった点を指摘したと思われる評価項目もあった。国際コース学生の評価は全体的にやや低めだった。コメントから推察すると、多岐にわたる農学の知識を得られたとの高評価が多い一方、Moodleの利用方法がわからなかったため評価を心配している様子や、講義自体を受講しなかったため低評価にしてしまった様子が伺える。	Moodle上で早めに講義形態の通知を出し、講義資料も早めにアップロードするよう改善したい。また、留学生向けのアンケート内容の改善が必要。該当する評価項目でない場合に低評価を選ばせずNot applicableを選ぶよう選択肢を加える、受講しなかった学生はアンケートに回答しないよう注意書きを加える、など不適切な回答をさせない工夫が必要。	
22	25665011	動物・水産先端科学論(国際コース)	14	11	78.6	4.51	The collection rate of the questionnaire was 35-46%. Most of the responses were close to the average; however, the proactive learning rate was the lowest (3.2).	We will need to think about how to improve students' proactive learning. There are a few more concerns about students' learning, which I will discuss with the other two course teachers of this omnibus course.	
23	25669904	食品免疫機能分析学特論	29	20	69	4.75	本講義は生命機能科学専攻所属の学生を主対象としているため、生化学的要素が強い内容となっている。本年度は資源生物化学や工学部など他専攻所属の学生も多く受講しており、これら研究分野が異なる学生にも興味を持って授業に臨めるよう、講義の難易度を含めて入念に準備した。その結果として、全体的に平均以上の評点につながったと考えている。一方で、関連分野の自習あるいは講義内容の深化など、知見の広がりにつながる効果が弱いことも明らかになった。また、専攻以外の学生（特に工学部の学生）には理解が不十分にとどまった部分があったことが、難易度への評価に表れていると考える。	本講義のコアである免疫機能に関する学習はもちろんのこと、その内容を多方面に応用する思考を導けるよう、応用例の引用を増やすことを検討する。また、専攻以外の学生も十分に理解できるよう、難解な部分の解釈を追加する。	
24	25660006	作物学特論	13	3	23.1	4.84	回収率が低かったものの、概ね本講義の目的や理解度は達成できたと考ええる。特に本講義にて意識して取り組んだ双方向性に関しては、5.0となり全体の満足度へと繋がったと考えられる。	次年度も本年度と同様に引き続き双方向性を意識した講義内容とすことと同時に、より専門性の高い講義内容としたい。	
25	25660009	昆虫多様性学	24	5	20.8	4.78	すべての項目において、担当講義の評価は科目群平均を上回っていた。とくに「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」「この授業内容についてより深く学びたいか」の評価は科目群平均4.3に対して4.8であり、「授業の難易度は適切であったか」「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」の評価は科目群平均4.4に対して4.8であり、評価が特に高かった。	「教員の説明はわかりやすかった」の評価が4.6であり科目群平均4.5を少し上回るだけであったため、次回の講義では、説明をより丁寧に行うこととする。	
26	25663307	食品工学特論	12	9	75	4.58	全ての項目において評点が4を超えており、十分な教育効果があったと考えられる。内容も最新の研究内容に関する調査報告を含めており、発見の多い授業との評価が得られていた。	次年度も同様に新しい研究成果を紹介できる内容を含めていきたい。	
27	25665003	生物資源論	24	20	83.3	4.65	高回収率（83.3%）で、ほぼすべての項目で科目群平均値を上回った。様々な生物資源の重要性を学び、それらの保全と管理の意義を習得した様子だ。今後の学習意欲および満足度は科目群平均値と同等だった。	学習意欲と満足度をさらに上げるため、最初の講義で生物資源横断的に特徴を概説し、生物資源への関心を早期に高める工夫をしたい。	
28	25665004	地水環境論	22	17	77.3	4.85	すべての項目において科目群の平均値よりも高いスコアとなった。講義中、講師が双方向のコミュニケーション（講義中に質問を受け付けたり、履修生に問いかけてみるなど）を取り、受講生の反応を見ながら、講義を進めたことが良い評価につながったと考えられる。	次年度も同様な手法で、履修生の反応を見ながら、講義を進めていきたいと考えている。	